

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

広南中学校区 校番 2 呉市立広南小学校

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	④ 9年間を通して、確かな学力を育成する	④ 子供の問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善 「主体的・対話的で深い学び」を充実させるための授業改善	○再度、教職員間での共通理解を図り、統一した指導ができるように取り組んだことにより、児童の肯定的な評価や達成感にもつながったと考えられる。引き続き、書き方の指導や評価を継続的にを行い、課題意識を持たせる授業づくりを目指して取り組んでいく。 ○「主体的に、考え議論する」具体的な姿を発達段階ごとにまとめた広南「はなしたいわシート」を作成・活用し、道徳科の授業の中で、自分の考えを伝えたり、聞いて考えたことを伝えたりすることができるようになっている。そのことが自己評価の向上につながってきているのではないかと考える。 ○活用テストの類似問題を作成して授業に取り入れたり、予習を行うことによって生まれた適用問題を解く時間を活用して、様々な問題に取り組むことで応用的な問題に慣れ、解答できる児童が増えてきた。しかし、学年によっては、基礎的、応用的な問題とともに課題がある児童が多く、個別の学力向上が課題となっている。	○予習からめあてへ、めあてから、展開、まとめ、振り返りと予習を生かした授業展開を行えるように、児童のノートを見合う研修を設定し、再度、共通理解を深めていきたい。また、研修での学びを児童に返すことで、次年度へ向けた意識向上にもつなげていく。 ○道徳科の授業以外でも広南「はなしたいわシート」を活用し、自分の考えを伝えたり、聞いて考えたことを伝えたりすることを大事にした授業を行っている。友達と考え伝え合うことは楽しい、面白いと感じることができるようにしていきたい。 ○引き続き、適用問題を解く時間を活用して、様々な問題に慣れさせていく。また、教師もテスト問題を視野に入れた授業づくりを行っていく。ドリルタイムや広南タイムを活用して、学年や学校の課題領域に取り組み、学力の向上、定着を図る。
**	④ 礼節と挑戦心を身に付け、健やかでたくましい心と体を育成する	基本的な生活習慣の定着 体力の向上	○児童・教員ともに生活目標や「5つの合言葉」を意識した生活を心掛けている様子が見られた。これからも日々の活動の中で具体的な行動に結び付けられる場面を増やすことができるようにし、生活習慣のさらなる定着を目指したい。 ○どの学年も「早寝」に課題があり、睡眠時間が短く、体調不良の要因となっている児童もいる。 ○「メディア」の時間も長くなっていることから、就寝時間に影響していることが考えられる。 ○重点項目三点はいずれも目標達成には至らなかった。特にシャトルランや50m走では前回と比較して低下している傾向が見られる。この要因としては、外遊びする児童が少なく、日常的な運動量が不足していることや、体育科授業で十分に走力をつけるためのウォーミングアップや基礎的な体力づくりが不足していた可能性がある。 ○ほとんどの種目でくれチャレンジマッチ5位以内を達成することができた。学校全体でくれチャレンジマッチの強化週間を設定し、体育科の授業だけではなく業間での長縄等の取組を行ったり体育朝会で各種目のコツを伝えたりするによって、児童の記録向上への意欲も高まっている。	○教職員間で共通理解を図り、統一した指導ができるようにするとともに、毎月の生活目標との関連を図るようにする。 ○「早寝」や「メディア」に課題があることを知り、「寝ること」の重要性を、保健だよりや委員会活動等を通じて継続的に啓発、指導するとともに、懇談会等で保護者にも周知する。 ○必要な場合は、生活習慣について個別の健康相談を実施する。 ○毎月一度全児童が校庭で遊ぶ「外遊びデー」を設け、外で走ったり身体を動かしたりする習慣をつける。体育科授業では「8秒全力走」など、短時間で効果的なトレーニングを授業前に実施する。また、モチベーション向上のため、重点項目の目標をすべて達成した児童をクラスや学校全体で共有し、努力を称える場を設ける。 ○来年度もくれチャレンジマッチの強化週間を設定したり、業間運動を継続したりする。各学年の記録や順位を学校掲示することで、児童の意欲を向上させる。
*	④ 自己有用感を高め、活力を生み出す学校をつくる	異学年交流や地域との交流活動を通じた資質・能力の育成 児童の「自分の命は自分で守る」力の育成	○クリーン活動や縦割り掃除、学園朝会を通して、1年生～9年生までの交流を深めることができた。一つの目標に向かってお互いに協力し合いながら活動したことで、子どもたちにとって学校生活の活力や自信につながり、さらなる成長への土台となった。 ○行事や道徳教育の充実を図ることで、自分の考えや生き方と向き合って振り返ったり、将来についてじっくり考えたりしている児童が増えた。 ○中学校や地域の方と連携した防災教育の実施や学級指導等を通して、「自分の命は自分で守る」という意識を高めることができた。 ○「地震・津波対応携帯マニュアル」の作成を通して、保護者と一緒に避難場所や避難経路、災害発生時の約束事について確認することができた。	○持続性のある取組を確立し、学校、地域全体で成長を支えあう環境を作っていくことができるよう、引き続き、異学年交流の場を設定する。 ○道徳教育と他教科との関連、保護者との連携を図ることにより、自分の生き方や将来について考える機会をもつ。 ○避難訓練や学級指導等を通して、「自分の命は自分で守る」という思いを維持できるよう、継続して指導する。 ○一時的な防災教育とならないよう、継続的な指導と、家庭への情報発信を積極的に行い、防災意識の向上を図る。
業務改善	④ 働き方改革を推進する	④ 長時間勤務の削減に向けた業務改善	○成績処理の期間はすいすい日課にする等して、放課後の時間確保を継続した。 ○行事に向けての準備等のために、放課後の時間を使ったり、連携したりすることがあり、時間外在校時間が45時間を超える職員が多かった。	○成績処理や行事等の早めの計画・準備を心掛ける。分掌やペア学年での協力体制をより意識させる。 ○放課後の時間確保と、時間外在校時間を意識させる取組を継続する。 ○ICT(タブレット端末・スグー)を効果的に活用する。